

目指す学校像	将来の進路実現のために必要な学力や知識を身につけさせるとともに、実践をとおして豊かな人間性を磨き、Society5.0の時代を迎える厳しい社会の中でたくましく生き抜くために必要な資質や能力を身につけさせる学校づくりを目指す。
--------	--

重点目標	AIの時代だからこそ必要とされる「人間力」を育てる 1 科学的思考力の育成 2 英語力を鍛える教育の徹底 3 コミュニケーション能力の強化 4 徹底した論理的思考力の育成 5 将来を見据えた進路指導 6 生徒募集を強化し、入学者数の増加を目指す
------	--

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	4名

学校自己評価										学校関係者評価
年度目標					令和5年度評価					実施日令和6年3月9日
					中間(9月9日現在)	令和5年度末(3月9日現在)				
番号	重点目標(評価項目)	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の進捗状況	達成度	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	教科横断的思考力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIの時代に立ち向かっていくための総合的な視点に立った思考力が十分に身につけていない。</li> <li>体験的な実践が十分ではない。</li> <li>研究施設や博物館を訪問しての学習が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉大学STEM教育センターとの連携によるSTEM教育の推進する。</li> <li>ニュートンのゆりかごテンセグリティ構造マグナス効果を試すストームグラス(気象管)をつくるDNAを取り出す葉脈標本をつくる</li> <li>JAXA筑波宇宙センターなどへの訪問学習を実施する。</li> <li>世界遺産訪問学習：富士山世界遺産センターを訪問し、世界遺産に登録されるまでの過程を学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年ごとのSTEM教育の年間目標 中1: センサの活用 中2: センサを利用したロボットの作成 中3: センサの値を利用したデータの処理</li> <li>様々な種類の実験を通して幅広い知識を身につけていく</li> <li>施設訪問学習のレポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期のSTEM教育 中1: scratchの基本操作 センサ、モーターへの接続 中2: モーターとギアを利用した回転の制御 自動ドア模型の製作 中3: 光センサを使用した教室の照度の記録及び、レポートの作成方法</li> <li>中3 サイエンスイノベーションの授業内で、1学期にテンセグリティ構造の模型を作成し、文化祭時に展示した。</li> <li>同コースの授業内で1学期にレジンジュースからDNAを取り出す実験を行なった。</li> <li>中1・2生が8月に富士山世界遺産センターを訪問し、世界遺産登録までの家庭を学習した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>STEM教育では各学年とも年度当初に計画していた目標段階まで達することができた。</li> <li>(2学期のSTEM教育) 中1: モーターを利用した車模型の製作 中2: ボール運搬ロボットの製作 中3: 身のまわりの問題解決 身近な課題をプレゼンテーションを用いて発見する</li> <li>(3学期のSTEM教育) 中1: 金属と抵抗センサを利用したゲームの製作(本物の達人のようなもの) 中2: 光センサを利用したゲームの製作 ※人感センサを利用したゲーム 中3: 2学期の授業で見つけた身近な課題を解決するための装置を作成し、ライブにまとめて発表する(プレゼンテーション)</li> <li>中3 サイエンスイノベーションの授業内で、2学期に金木犀の葉から葉脈標本を作成し、また、パックスピンかけることによって生じるマグナス効果の実験を行った。</li> <li>11月にJAXA筑波宇宙センターを全学年で訪問し、人工衛星や小惑星探査機等について深く学習することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年目を終えた埼玉大学STEM教育センターとのSTEM教育も充実しつつあり、プログラミングを中心とした教科横断的な教育の実践ができた。</li> <li>次年度も引き続き、埼玉大学STEM教育センターの協力のもと、時代の流れを見越した取り組みをしていき、小学生のいる家庭にも積極的にアピールしていく。</li> <li>サイエンスイノベーションの授業内で色々な実験等を実施してきたが、学年の全生徒が同じような実験ができるように取り組んでいく。</li> <li>研究施設等の訪問を企画していき、そこで研究員の方からの解説を聞けるようなことも計画していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉大学とのSTEM教育は受験生の保護者に対して訴求効果のある取り組みである。募集活動でもさらに積極的にアピールしていき、STEM教育(プログラミング)があるので埼玉平成に入学したいという受験生を確保していきたい。</li> <li>STEM教育を通して得た知識や技能を子供たちが将来の社会で活かして欲しいと願います。</li> <li>実生活での問題点を改善できるかを考え、取り組みせよとする姿勢は素晴らしい。</li> </ul>
2	英語力を鍛える教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>英検で全員が目標級に合格できるようにすることが課題である。</li> <li>スピーキングとライティングの力が十分に身につけていない。</li> <li>海外の人々との交流を広げ、生きた英語に触れる機会を増やすことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年ごとに合格目標級を設定し、英検対策授業をさらに充実させ、目標級合格を目指す。</li> <li>毎朝のNHK英語講座での英語学習やEnglish Station(英会話サロン)で日常会話の練習に加え、検定のスピーキング対策を取り入れた会話練習を実践する。</li> <li>英語絵日記を書かせることでライティングの力を身につけさせる。</li> <li>オーストラリアやアメリカの人々とオンラインでの英会話の機会を増やし、文化の違いなどを学習しながら、手紙等の交換などで交流を深めていく。</li> <li>学期に2曲の英語の歌を昼休みに放送し、歌詞を覚えて歌えるように指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年ごとの英検合格目標 中1: 4級 中2: 3級 中3: 準2級</li> <li>英検やGTECのライティング問題でのスコア結果</li> <li>英検2次試験では100%の合格を目指す</li> <li>海外の人々との会話を通して学んだことをレポート用紙にまとめる</li> <li>歌っている様子を録画し、HP等に掲載する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休みの英会話サロン(English Station)が活発に活動できている。2〜3人をひと組みにし、15分間のフリー英会話。</li> <li>・アメリカ California州のMoreau Catholic High Schoolの生徒達やオーストラリアの大学生との定期的なオンライン英会話実践できている。</li> <li>・月〜金曜日の朝8:20〜学年ごとにCDとテキストを利用してのNHK英語講座の学習ができている。</li> <li>・1学期の英語の歌 4月・5月: "Just the Way You Are" 6月・7月: "Let It Be"</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での英検の対策が今年度は十分にできなかった。しかしながら2次面接練習は計画的に実施でき、2次試験の合格率は極めて高い。</li> <li>・夏季休業・冬季休業中の思い出を生徒が英語での絵日記にまとめて提出し、校内に掲示した。</li> <li>・アメリカ カリフォルニア州の Moreau Catholic High Schoolの生徒達と定期的なオンライン英会話で、日本のお話や日本のアニメ作家についてプレゼンテーション形式にし、英語で伝えることができた。</li> <li>・中3 福島県の"ブリック・ヒルズ"での語学研修でさまざまな場面の英会話を体験した。</li> <li>・12月に実施したGTECでは1名の生徒がCEFR-J LEVELでB2ランクを得ることができた。この生徒は1,000以上のスコアを獲得したので、成績優良賞を受賞することができた。</li> <li>・1月に全学年で訪問した東京グローバルウェイでは海外の大学キャンパスや"ファースト"での会話を疑似体験などを行うことができた。</li> <li>・2、3学期の英語の歌 2学期: "Water Is Wide" "All I Want For Xmas Is You" 3学期: "Ebony &amp; Ivory"</li> <li>・本校の英語教育の取り組みが英検WEB情報に掲載された。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検の1次試験対策授業を計画する余裕が十分ではなかった。来年度はしっかりと計画・実行していきたい。</li> <li>・英検2次試験対策での面接練習を計画的に実施しているため、2次試験の合格率はほぼ100%に近い結果を出している。次年度もこの対策練習を継続していく。</li> <li>・中学1年生のたGTEC JUNIORはすべてタブレットを使用する新しい4技能タイプの検定であるが、これからの時代はタブレットを使用する検定が多くなると予想されるので、来年度も実施していきたい。</li> <li>・アメリカとのオンライン英会話を定例化し、自分の考えを英語で相手に伝える機会を増やしていく。</li> <li>・東京グローバルウェイなどの英語学習施設を活用することを来年度も企画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外とのオンライン英会話をほぼ毎月のペースで実践できていることはとても素晴らしい。日本のアニメ文化に関心を持つ海外の若者が多いようなので、これからもこのような交流が継続できることを期待する。とても良い取り組みである。</li> <li>・英検の2次試験の合格率がほぼ100%であることには感心する。日頃からの対策の成果が出ている。</li> <li>・英検の学年ごとの目標を設定し、目標達成を目指した取り組みを行っていただきたい。</li> </ul>

3	コミュニケーション力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを表現する「言語力」をしっかりと身につけることが課題である。</li> <li>人前で自分の考えを適切に伝えられる力が十分に身につけていない。</li> <li>CAPSの時間等で自分の考えをグループの仲間に伝え、グループを上手にまとめていく力を身につけることが課題である。</li> <li>日本語検定において学年ごとに目標級を設けて、努力させることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノルディスコラ手帳の活用をさらに徹底し、日記の習慣を定着させる。</li> <li>研究発表会で自分の考えを豊かな表現で発表できるように指導していく。</li> <li>アクティブラーニングの実践により自身の考えを意欲的に伝える機会を増やしていく。</li> <li>自分の考えをCAPS等を通してグループ内で伝えられる機会を増やし、主体的に学ぶ力を育成する。</li> <li>講話や諸行事等での感想文指導を強化していく。</li> <li>授業の中で対策のための時間を工夫していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノルディスコラ手帳の記録</li> <li>手帳甲子園への作品応募</li> <li>研究発表会の成果</li> <li>「主体的・対話的で深い学び」の実践</li> <li>諸行事での感想文の成果</li> <li>学年ごとの日本語検定合格目標 中1: 5級 中2: 4級準認定 中3: 4級</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月にCAPSを実施した。学年を縦割りにしたチーム編成にし、より高い利益を出すために活発な意見交換をする光景が見られた。</li> <li>6月に全生徒が日本語検定を受検した。</li> <li>多くの教科や道徳の授業の中で「主体的・対話的で深い学び」の実践ができています。</li> </ul>	A A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月に開催された文化祭で手帳甲子園の作品の校内投票を実施した。丁寧にスケジュールの記入ができていた生徒の手帳は他の生徒の模範となっている。</li> <li>全学年合同での道徳授業を年間で7回実施し、各テーマで学年を超えた意見交換をすることができた。</li> <li>12月、3月にも学年を縦割りにしたチーム編成でのCAPSを実施し、他のチームよりも高い利益を出すために主体的に考え、協力しながら話し合う機会を得ることができた。</li> <li>パラアスリートの出張授業で講演会や実技指導を体験し、感想を短時間でまとめることができるようになった。</li> </ul>	B A A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日欠かさずに日記をつける習慣が身につくよう継続して指導していく。日記欄に自分の意見を書いていくように助言していく。</li> <li>家庭での学習習慣をつけていけるように、きめ細かく日課を書くように指導し、手帳甲子園に出品した作品が入賞できるよう指導していく。</li> <li>道徳の授業内で自分の考えを発表する機会を設け、諸行事や講演会の感想も文章でまとめられるように指導していく。</li> <li>自分の意見を相手に伝え、また、相手の意見を聞きコミュニケーション力を身につけさせる機会を設けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会で自分が考えていることをまとめて、しっかりと構成を組み立て大勢の人々に伝える経験は大切なことである。</li> <li>ノルディスコラ手帳の活用は将来社会に出てからも役に立つことを若いころから習慣として身につけられることは素晴らしい。</li> <li>最近の若い社会人は社内でのコミュニケーションの取り方が苦手な人が多い。中学生の時から相手とのコミュニケーションの取り方を学んでいけば将来苦労することもないであろう。</li> <li>出張授業の内容もとても興味深く、良い取り組みをしている。</li> </ul>
4	徹底した論理的思考力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のプレゼンテーション能力を一層向上させることが課題である。</li> <li>将来の大局的な視点に立った経営的な手法が充分に身につけていない。</li> <li>教科横断的な思考力が充分に身につけていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会の準備を6月からスタートさせ、指導する。(再掲)</li> <li>聴衆の前で発表できる技術力と組み立て方法を育成する。</li> <li>経営シミュレーションゲームのCAPSを通して利益を出すための論理的な思考を鍛える。</li> <li>読書の習慣を身につけさせる</li> <li>STEM教育を通した論理的思考力を育成する。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会におけるプレゼンテーション</li> <li>大局的なものの見かたの定着度</li> <li>CAPSの取組みの結果</li> <li>俯瞰的で、先を読んだものの見かたの定着度</li> <li>図書だよりの発行朝読書の習慣化</li> <li>STEM教育の成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会に向けたリエンションを実施した。夏休み前に、全生徒が今年度の各自のテーマを決め、準備を始めた。</li> <li>学年を縦割りにしたチーム編成をしながら、各自の経営に対する考えを言い合いながら、コンピュータ上での利益追求を競い合うことができた。</li> </ul>	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒たちは各自の研究発表の構成表を作成し、「起・承・転・結」の構成を組み立て、自身の見解を論理的にまとめながら発表することができた。</li> <li>今年度は各学期に1度のペースでCAPSを実施することができた。勝つことを意識して取り組もうとするチームが多く、より高い利益を出すために各自が思う意見を活発に交換し合う光景を見ることができた。</li> </ul>	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会については、コロナ禍では、収容人数の少ない小部屋からのリモート発表の形式を取っていた。今後、大勢の聴衆の前で発表する形式に戻し、尚且つYouTube配信を継続していきたい。</li> <li>STEM教育では、さまざまなプログラミングの原理を理解しながら、論理立った製作ができるように指導していきたい。</li> <li>CAPSを学期に1回の実施を企画していきたい。経営についての論理的な思考を養っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイント(グループスライド)を中学生の時から使いこなせる能力を身につけさせているのは素晴らしい。</li> <li>発表の構成も含めてプレゼンテーションの能力が身につけていることは将来、社会に出てからとても大きな力となる。社会に出てからも自分のアイデアを上司に積極的に提案できる人物になって欲しい。</li> <li>デジタルブックでもよいので少しでも読書の習慣が身につけば良いと思う。</li> </ul>
5	将来を見据えた進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の適性や力の把握が充分にできていない状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業に対する意識を高め、仕事の具体的な内容について探求する姿勢を持たせる。</li> <li>オンラインでの企業見学を通して、自分の将来を見つめさせる。</li> <li>卒業生の体験談を聞く。</li> <li>スタディサブリを活用する。</li> <li>学習センターを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアに対する意識を持たせる行事の企画</li> <li>進路意識の定着</li> <li>卒業生による講演会の企画</li> <li>模擬試験や学力コンテストの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生で一般企業(日本生命、イオン、NEC等の関係会社)や民間の幼稚園で働いている方々に出演していただき、仕事のことや中高時代、学生時代についてのお話を聞くことができた。</li> <li>ハウス食品静岡工場とのオンライン工場見学を通し、徹底した衛生管理やオートメーション化を感じ取り、感想をまとめることができた。</li> </ul>	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベネッセ社の学力推移調査を年3回実施した。全国の私立中学生の中での各自の学力的な位置を確認</li> <li>リクルート社のスタディサブリを活用した苦手分野を克服するための学習状況のチェックをし、遅れている生徒への助言ができた。</li> <li>リクルート社の到達度テストを定期的に実施することにより、各自の弱点を確認し、その復習すべき項目をアドバイスしていくことができた。</li> </ul>	A A B	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人編の「卒業生を囲む会」の実施を通して、中学生に職業に対する意識を芽生えさせたい。</li> <li>大学との連携を継続して、キャリア学習会を企画していきたい。</li> <li>遠方の工場とのオンライン工場見学を継続していきたい。このような工場見学を通して職業に対する意識を高めるとともに、各企業の商品開発における努力を学ぶ機会にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人になった卒業生から仕事についての話を聞くことは生徒たちが職業に対して関心を持つための良い機会になると思う。</li> <li>若い社会人の中には対応できる領域を超えた対応ができない想像力の乏しい人が多い。自己の判断で臨機応変に対応できる生徒をこの時期から育成して欲しい。</li> </ul>
6	生徒募集の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒募集を強化し、入学者数の増加を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、Facebook、InstagramなどのSNS分野の強化</li> <li>動画(YouTube)を使用し、生徒の生き生きとした活動風景を配信していく</li> <li>魅力的な募集行事の企画</li> <li>塾訪問の強化による塾との良好な関係の構築</li> <li>新たな入試制度の導入による受験者数、入学者数の増加を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォロー数の増加</li> <li>募集行事の参加者数の増加</li> <li>受験者数の増加</li> <li>入学者数の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回学校説明会(6月) 研究発表会報告</li> <li>第2回学校説明会(7月) STEMセミナー プログラミング体験 理科実験教室</li> <li>第3回学校説明会(8月) ダヴィンチの編劇制作 うちわ制作 夏の星空観察</li> <li>第4回学校説明会(9月) 語学研修旅行報告会</li> </ul>	A A A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回入試説明会(10月) 入試問題解説セミナー 在校生保護者インタビュー</li> <li>第2回入試説明会(11月) 模擬入試問題</li> <li>第3回入試説明会(12月) 各教科からWebインタビュー</li> <li>フォロー数の増加 Instagram 147%アップ、Facebook 104%アップ</li> <li>西部地区の新設私立中学校の影響もあり、入学者数を減らしてしまった。</li> </ul>	A A A B C	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、Facebook、InstagramなどのSNSを活用し学校での生徒たちの生き生きとした活動風景をタイムリーに発信していく。</li> <li>地元地域の募集体制を強化するとともに、県南部や都内の広範囲から入学生を受け入れられるように募集活動に力を入れていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設校の魅力に対抗できるリサーチとアピールができるかが今後の鍵となる。</li> <li>自分たちの強みと弱みをよく分析し、今後の募集活動に繋げて欲しいと思う。</li> <li>偏差値だけでは評価できない学校としての取り組み姿勢の良いところをアピールしていき募集活動の成果に繋げていきたい。</li> </ul>

\*STEM教育とは、アメリカのオバマ前大統領が推進した教育システムで、これからの時代を担う子どもたちに必要な資質を統合的に身に付けさせていくという先進的な取組です。「STEM」とはScience(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)のそれぞれの単語の頭文字をとったものです。この教育は創造、変革、問題解決に必要な力を育てるもので、単なる理系科目教育やプログラミング教育ではなく、教科横断的に取り組み、社会や創造性と密接に結びついた生徒の主体性を育む総合的な教育システムです。